

## 平成24年度 長良川河口堰県民調査団 要約意見書

## (1) 水質・底質について

## 高須輪中内の地下水塩化物イオン濃度調査箇所

- NO. 1(質問) 12m深の井戸で地下水の塩化物イオン濃度の測定がされているのを拝見したが、4m深の変化を知りたい。
- NO. 2(意見) 高須輪中内の地下水塩化物イオン濃度の上昇が測定されている限り、今後も注視して、地下水水質モニタリングを行うべきであると考えます。
- NO. 3(質問) 河口堰の運用開始後、塩化物イオン濃度が500mg/l程度から3,000mg/lを超へと6倍以上に跳ね上がったことに驚くが、この観測地点での調査はどこまで数値が下がり、安定するまで続けるべきと考えているのか。
- NO. 4(質問) 調査箇所での塩化物イオン濃度が高いことは分かったが、周辺では普通に耕作されているようで、特に問題はないように見えた。日本のどこかに塩害で耕作できない所はあるのか。
- NO. 5(意見) 県民のために情報を出すのであれば、国の資料を出すだけでなく、県独自に調査して市民に示すべきである。これが海津で農業を営む皆さんのためにも、岐阜県民のためにも県行政が行うべきことではないか。
- NO. 6(質問) 塩分濃度が濃いというのは分かるが、それがどのような意味を持つのか分からない。何故、高須輪中だけなのか。
- NO. 7(質問) 田面下の暗渠排水と承水路流水の塩化物イオン濃度は測定しているのか。

## 長良川河口堰

- NO. 8(質問) 堰の下流では、真水分量は堰が造られる前と変わらないのか。魚道やオーバーフロー操作のみでは(塩分が)濃いような気がする。また、上流からの砂等の供給がなく自然に近いように思えない。今後も継続調査し、オーバーフロー、アンダーフローによるフラッシュ操作を増やす等の検討をしていただきたい。
- NO. 9(意見) 河口堰の稼働後、堰上流水域にヘドロが堆積し、水質や生物に影響を与えているとの報道を目にしたことがあるが、このようなマイナス情報についても今回のような機会に我々に説明して欲しい。

## (2) 魚類について

## 長良川河口堰

- NO.10(意見) 右岸側せせらぎ魚道入口を横断させた進入禁止のブイ群は、瀬張網漁の魚場の作りと同一の状況になっており、アユ等の遡上阻害を起こしていないか。揖斐川の流水がこの進入禁止ブイ群の下流側で合流しており、好ましくないのではないかと。検討して改善する必要がある。
- NO.11(質問) 魚道等、よく考えて造られているとは思いますが、養殖による放流も多く、天然モノの遡上はどうか。
- NO.12(意見) 河口堰の建設や機能については懐疑的な思いもあったが、今回の視察でそれも少しは薄まった気がする。ただ、あの幅広い川幅のうち、いくらか場所による流速の差をつけている誘導法でも、たった数箇所の魚道でアユや他の生物が往来できるのか疑問に思う。

NO.13(意見) 海と川との生物の行き来について、稚アユの遡上数の値だけに還元するのは、川の豊かさは測れない。生物多様性指標等と従来のデータを突き合わせて新しい観点での調査と対策が必要。

### (3) その他(治水対策等)について

#### 人工干潟(城南沖)

NO.14(意見) 自然を取り戻すための手段として、人工干潟は有効な方法であると思われる。ただ、底質状況は現状ではおおよそ安定しているようであるが、出水や濁水によっては、今後底質が変化してしまうのではないかと。

NO.15(要望) かつて木曾三川河口には自然の干潟が存在し、多くの鳥や底生生物が棲んでいたと思う。人工干潟は嬉しいが、河川や陸と繋がっていない干潟は異様だった。少し岸につけたりして、自然に近い姿に戻ることを期待する。(揖斐川、木曾川河口で)

NO.16(質問) (人工干潟が)川からの土砂で自然にできたものではなく、海水に土砂をさらわれることはないのか。今はどこもコンクリートの防波堤に囲まれて揖斐川、木曾川からしか自然の土の流入はないと思った。

NO.17(意見) 干潟の消滅は河口堰建設のためというよりも、工業団地造成等の結果によるものと考えられるが、事業がらみの浚渫土砂で新たな干潟造成がなされたことは素晴らしいと思う。

NO.18(質問) 河口堰の運用開始によって自然干潟はどのように変化したのか。また、河口堰と人工干潟との関連はどうなっているのか。

NO.19(質問) 人工干潟造成にかかる事業費と支出項目について説明してほしい。

#### 長良川河口堰

NO.20(要望) 1箇所堰を造り、人工的に操作することは長い歴史の中でこの近年の文明社会からである。川は人に例えると血液の流れであり、地球の循環を考え、より自然に近づけてほしい。堰により知多半島等の濁水が聞かなくなったことは良いことだと思う。次世代のために皆で創意工夫し、より良い堰の運用を望む。

NO.21(意見) 河口堰は高須輪中住民の生活基盤の安定に関わる重要な施設である。反対する団体は利水、魚の遡上、水質悪化等を前面に立てての抗議活動を続けているが、輪中内の住民としては治水と塩害対策のための施設だと理解している。治水面では運用開始以来、川底の浚渫の結果、高水敷に水がつくことは殆どなく、その安全上の効果は絶大なものがある。

また、川底浚渫の結果の塩水遡上を防ぐ目的での河口堰は、輪中住民の生活を守るためのかけがえのない施設だと考える。試験的開門の実施等、論外である。

NO.22(意見) 愛知県の検討委員会で専門家より議論され、出された試験開放調査すべきという結論を全く検討しようとならない水資源機構や岐阜県に疑問を感じる。運用が始まって17年が過ぎても「問題がある」という声が挙がるにはそれなりの原因がある。

また、専門家も認めている訳なのだから、試験開放調査をすべきだし、岐阜県も「宝」と言っている長良川を守るために協力すべきだと考える。